

■■■
(2016年4月号)

「4月といえば、JICAボランティア春募集！どう積む？（みんなに聞きたい！どう積んだ？）実務経験」

=JKM（JICAナレッジマネジメント）日本語教育分野メルマガ=
■■■

★ABOUT★

JKM（JICA ナレッジマネジメント）日本語教育分野メルマガは、途上国で日本語教育に取り組んでいる、あるいは途上国での日本語教育に関心をお持ちの皆様を中心に日本語教育関連情報を提供することを目的としています。また、日本語教育にご関心のある方々への転送を歓迎します。

■□
=今月号のコンテンツ=
□■

トピック

1. 新コーナー！『こもんにしつもん、こもんともんどう』
 2. JICA日本語教育ボランティア関連
 3. JICAナレッジサイト（日本語教育分野）更新情報
 4. 日本語教育・日本語教育関連サイト、ニュース
- 編集後記

■□
<トピック>
□■

応募を考えている方必見！

4月といえばJICAボランティアの春募集！「プロとしての日本語教師経験がないけど、応募できるの?」「新卒での応募は難しいのかな…?」と悩まれている方はいませんか?今回は、新卒で応募し現在コスタリカで活動中の白井瑞穂さんにインタビューをしてみました。

■白井瑞穂さんインタビュー（聞き手：日本語教育支援ユニット）

Q1:大学在籍中に応募を決めたきっかけを教えてください！

大学4年の春、大学の先生に「海外で日本語教師として働きたい。」と相談したとき、JICAボランティアの存在を知りました。JICAならではのネットワークやサポートの充実さから、より幅広い活動ができると思い、応募しました。

Q2:日本語教育の教授経験を積むために日本で何かしていましたか？

近くに日本語学校が一校しかなく、求人もなかったので、ボランティアとして地域の日本語教室で日本語を教えていました。また、海外の現場を知りたいと思い、カンボジアの学校に2週間滞在し、指導に関わりました。

Q3:経験を積むために意識して行動されていたことはありますか？

色々な学習者と関わられるように、子どもを対象とした教室、社会人向け、主婦の方々へのクラスなど3つの日本語教室に通っていました。

Q4:今の活動に日本での教授経験は役立っていますか？

はい。様々な学習者とふれあい、その人の好みや特徴を考えて授業をつくる大切さを学びました。大学ではなかなか一人ひとりに合わせた授業はできませんが、どうすれば楽しく学べるかと常に意識するようにしています。

Q5: 応募を考えているみなさまへ

私は2回受験しています。経験なしで応募した春募集は実践力が足りず、その後ボランティアを始め、秋募集で合格。資格条件は決して絶対ではありません。経験が少ないと悩んでいる方は、思い切って挑戦してみてください。

日本語教育ボランティア必見！

『求む！あなたの配属先自慢～JICA日本語教育の魅力を伝えよう～』

「私の同僚や学習者、配属先の魅力をもっとたくさんの人に知ってほしい！だけど、どうやって伝えたらいいんだろう…。」とお悩みの日本語教育ボランティアのあなた！是非、メルマガを通して配属先自慢をしてみませんか？

掲載希望の（ご投稿いただける）方は jicajv-japanese@jica.go.jp までご連絡ください。たくさんの「配属先自慢」をお待ちしております。

1. 新コーナー！『こもんにしつもん、こもんともんどう』

第一弾は「応募に関する質問」に対して、吉田一彦技術顧問に回答していただきました。

Q1: 応募条件は何ですか？

「日本語教授法」を学んだことが資格条件になっています。詳細はJICAボランティアHP「よくある質問」(Q.23参照)で確認してください。

<http://www.jica.go.jp/volunteer/application/seinen/qa/index.html>

これまでの学習が条件を満たすかどうか、まず確認してください。不十分な点があれば、どんな方法で克服できるか考えてみてください。それと、構造や法規を学んだだけで自動車の運転ができないのとまったく同様に、教授法の知識を身に付けただけでは教師としての活動はできません。可能な限り実際に教える機会を持ち、学んだ知識を意識的に使う経験をしてください。

Q2: プロとしての日本語教教授経験がないけど、応募できますか？

教えてお金になったかどうかを問わず、日本語を教えた経験は選考の際に重視されます。とはいえ、派遣先が求めている経験年数を経てからでなければ応募できないのではなく、力試しのつもりで応募することにも意義があります。実際に選考を受けることで、自分の欠点に気づいたり、求められる技術の理解が深まったりします。複数回の受験の末に合格した人で、隊員として意義のある活動をした人は数多くいます。

Q3: どういったところで日本語教師としての経験を積めますか？

お住まいの地域に、在住外国人のためのボランティア日本語教室がないかどうか、情報を集めてください。そして、見つけれたら、学習者のサポートや授業担当者として参加する可能性について尋ねてください。学生の皆さんは、所属の学校で留学生の日本語学習のサポートが求められているかどうか調べてください。教える機会がどうしても見つからないときには、外国語学習と真剣に取り組み、学習者側の経験をしておくことも、非常に良い準備に

なります。

Q4: 子供に日本語を教える要請(日本語ボランティア)はありますか？

子供を対象にした日本語教育は、子供の成長や人格形成ともかかわるもので、成人教育とは一味違った意義を見出している人も少なくありません。このような機会は、日系社会青年ボランティアの「日系日本語学校教師」という職種で多く提供されています。また、青年海外協力隊の場合でも、10歳ぐらいから日本語を教え始める中等学校で、その機会が得られることがあります。

Q5: 応募を考えている方へメッセージをお願いします！

国際協力活動として海外で日本語を教えることは、価値観や信条、美意識、ものの考え方、歴史や伝統のまったく異なる人々と身近に接し、その人々と共同作業をすることで、あらためて世界の多様性に驚かされ、世界について学ぶ、願ってもない機会です。生まれながらに身につけている視点を相対化して自分自身を違った角度から見つめる機会、これまで縁もゆかりもなかった人々と共感し合えることで生きることのすばらしさに気づく機会にもなり得ます。「自分ならどう世界とかかわれるだろうか？」と想像し、おもしろそうだと感じたら、ぜひ応募してみてください。

2. JICA日本語教育ボランティア関連

【JICAボランティアの世界日記】活動紹介ブログ

■阿部響子さん(タイ/日本語教育)

『タイ南部から発信！トラン日より』

2/26更新「みんな！卒業おめでとう」

http://world-diary.jica.go.jp/k-abe/activity/post_3.php

■佐賀直子さん(ブラジル/日系日本語学校教師)

『思いっきりやっごらん！』

2/21更新「漢字の勉強と、書道」

http://world-diary.jica.go.jp/saga/cat534/post_34.php

3. JICAナレッジサイト(日本語教育分野)更新情報

▼日本語教育ボランティアの派遣情報等を随時公開中！

・外部公開はこちらから※現在改訂中※

<http://gweb.jica.go.jp/km/FSubject2301.nsf/> 共通 >

基礎知識 > 基本統計 >

・JICA関係者の方はこちらから：

<http://knowledge.jica.go.jp/> ナレッジサイトトップ >

分野課題 > 日本語教育 > 共通

▼JICA日本語教育ボランティアガイドブックを増刷しました。

世界各地の日本語教育分野で活躍するボランティア10人のインタビュー記事も掲載しています。

送付希望の方は jicajv-japanese@jica.go.jp までご連絡ください。

4. 日本語・日本語教育関連サイト、ニュース

▼スリーエーネットワーク <http://www.3anet.co.jp/>

